

短大における女子学生のクリークの形態

廿日出 里美 (四国大学短期大学部)

1. はじめに

新入生が自他ともに「大学生」と認められるようになるまでの苦勞は、いったん大学のシステムに慣れてしまった側には理解し難いトピックになってしまう。入学期には、“高校とは違って大学ではこうするのだ”という大量の情報が大学側から学生に向けて一方的に発せられるが、この過剰ともいえる大学側のメッセージを新入生は、どのように読み取ったり、再構成したりしながら、「大学生」らしい行動がとれるようになっていくのだろうか。その過程を当事者である学生の立場から理解するためには、まず、日常的な生活実践を観察することから始めなければならない。

大学生活が始まって、まもなくすると、キャンパス内には、さまざまな場面で行動を共にする学生たちの集まり＝クリークが形成される。これらのクリークは、解釈的アプローチでいう、文化的知識が生産される場であり、大学側の信念体系とそれに対抗して学生側が独自につくりあげる解釈とが錯綜する拠点となる(Eder, Evans & Parker, 1995)。文化の生産・再生産過程を知るうえで、クリークの活動は、格好の研究対象となる。

しかし、従来の学生研究において、学生が自らつくりあげるクリーク自体に焦点をあてた観察研究は、ほとんど見られない。現在の学生研究は、大規模な質問紙調査が主流で、研究対象は、国公立大学や有名私立大学の学生に偏向している。よって、大多数を占める学生層の文化的知識については、未だ明らかにされていない部分が多い。

そこで、本研究では、まず、ある私立短大

のキャンパス内に実在するクリークの形態を掴み、その特色を短大生活との関連から明らかにすることを当面の課題としている。

2. 方法

学生が短大において形成するクリークは、日常場面の観察によってある程度把握することができる。しかし、その規模と持続期間、及び、変化の過程を的確に把握する方法として、本研究では、以前、幼児を対象とした研究において有効性の認められたランチタイムを一緒に過ごした友だちの調査を利用した(廿日出, 1993)。調査対象は、四国内の私立短大の保育者養成コースに在籍する女子学生66名(1学年4クラスのうちの2クラス)である。調査方法は、調査票を用いて、週一回の割合で、2クラス合同で行われる授業の終了後、学生にその日のランチタイムを一緒に過ごした友だちを尋ね、該当する友だちの名前の欄に印をつけさせた。調査期間は、1年次の前期(10回)、及び、2年次の前期(8回)である。ランチタイムの調査と並行して、日常場面の参与観察と関連資料の収集を行い、その結果をもとに、面接調査を実施した。

3. 結果

ランチタイムを一緒に過ごした友だちの調査結果を利用して、クリークを検出した結果を以下に示す。表は、ランチタイムの友だち状況を学生別に表わしたものである。

友だち数は、一緒にランチタイムを過ごしたことのある友だちの人数である(平均=7.06(人))。友だち数が0の学生は、下宿に帰ってひとりで昼食とっていたことによる。しかし、彼女たちは、一貫して、単独行動を

とっていたわけではなく、授業のための席とりや教室移動など、別の場面では、特定のクリークに接触していることが参与観察と面接調査で確認された。

さらに、一緒にランチタイムを過ごしたことのある友だち内でその回数頻度にどれだけばらつきがみられるかを調べるために、その頻度を指標として、学生別頻度の平均値(X)と標準偏差(SD)からもとめたV値(Coefficient

of Variation)を数値の高い順に配列した。

表の右端には、ランチタイムの調査、及び、参与観察から、それぞれの学生に最も関係深いと考えられるクリークをアルファベット文字で表記した。検出されたクリークは、全部で12(A~Q)である。

発表当日は、それらのクリークの特徴を2年間の短大生活における諸場面との関連から述べる予定である。

表 学生別にみるランチタイムの友だち状況

学生	友だち数 ¹⁾	X	SD	V ²⁾	クリーク
f1	7 (24)	3.43	6.43	187.4	A
f2	7 (24)	3.43	6.43	187.4	A
f3	9 (45)	5.00	6.38	127.7	B
f4	9 (45)	5.00	6.38	127.7	B
f5	7 (41)	5.86	6.99	119.3	C
f6	7 (41)	5.86	6.99	119.3	C
f7	14 (50)	3.57	4.09	114.5	D
f8	12 (26)	2.17	2.37	109.3	E
f9	6 (35)	5.83	6.34	108.6	F
f10	6 (36)	6.00	6.48	108.3	F
f11	8 (45)	5.63	6.00	106.6	G
f12	7 (42)	6.00	6.38	106.3	B
f13	7 (44)	6.29	6.60	105.0	B
f14	6 (35)	5.83	5.91	101.4	H
f15	9 (40)	4.44	4.42	99.4	I
f16	7 (48)	6.86	6.79	99.1	G
f17	6 (35)	5.83	5.67	97.2	H
f18	8 (44)	5.50	5.35	97.2	J
f19	9 (27)	3.00	2.92	97.2	K
f20	9 (11)	1.57	1.51	96.2	L
f21	7 (11)	1.57	1.51	96.2	L
f22	9 (61)	6.78	6.44	95.0	M
f23	8 (54)	6.75	6.39	94.6	J
f24	8 (54)	6.75	6.39	94.6	J
f25	6 (38)	6.33	5.99	97.6	H
f26	9 (63)	7.00	6.52	93.1	M
f27	7 (30)	4.29	3.95	92.1	J
f28	9 (29)	3.22	2.86	88.8	E
f29	6 (46)	7.67	6.68	87.2	G
f30	12 (35)	2.92	2.54	87.1	K
f31	7 (15)	2.14	1.86	87.0	N
f32	2 (5)	2.50	2.12	84.9	O
f33	10 (40)	4.00	3.37	84.2	D

表のつづき

学生	友だち数 ¹⁾	X	SD	V ²⁾	クリーク
f34	8 (36)	4.50	3.46	77.0	P
f35	9 (50)	5.56	4.28	77.0	K
f36	7 (53)	7.57	5.77	76.2	F
f37	7 (59)	8.43	6.37	75.6	F
f38	9 (56)	6.22	4.68	75.3	K
f39	7 (38)	5.43	4.04	74.3	P
f40	9 (57)	6.33	4.66	73.6	K
f41	14 (31)	2.21	1.63	73.4	E
f42	7 (41)	5.86	4.22	72.1	J
f43	4 (12)	3.00	2.16	72.0	I
f44	8 (12)	1.50	1.07	71.3	N
f45	4 (8)	2.00	1.41	70.7	O
f46	3 (5)	1.67	1.15	69.3	P
f47	9 (60)	6.67	4.58	68.7	K
f48	5 (34)	6.80	4.66	68.5	P
f49	6 (17)	2.83	1.94	68.5	N
f50	9 (62)	6.89	4.59	66.7	K
f51	13 (49)	3.77	2.31	61.4	I
f52	8 (46)	5.75	3.20	55.6	I
f53	7 (10)	1.41	0.79	55.1	N
f54	9 (33)	3.67	2.00	54.5	I
f55	6 (40)	6.67	3.20	48.1	K
f56	7 (44)	6.29	2.36	37.6	G
f57	7 (50)	7.14	2.67	37.4	J
f58	3 (26)	8.67	2.31	26.6	D
f59	11 (11)	1.00	-	-	K
f60	8 (8)	1.00	-	-	K
f61	2 (2)	1.00	-	-	O
f62	1 (1)	1.00	-	-	L
f63	1 (3)	3.00	-	-	P
f64	0 (0)	-	-	-	Q
f65	0 (0)	-	-	-	Q
f66	0 (0)	-	-	-	Q

[註] 1) () 内の数値は延べ人数。

$$2) V = \frac{SD}{X} \times 100$$